

2011年度 決算説明会

2012年5月17日

株式会社 大阪チタニウムテクノロジーズ

目次

I 2011年度 決算実績

II 事業環境

III 2012年度 業績予想

IV 課題と取組み

I 2011年度 決算実績

2

2011年度 決算実績

(億円)

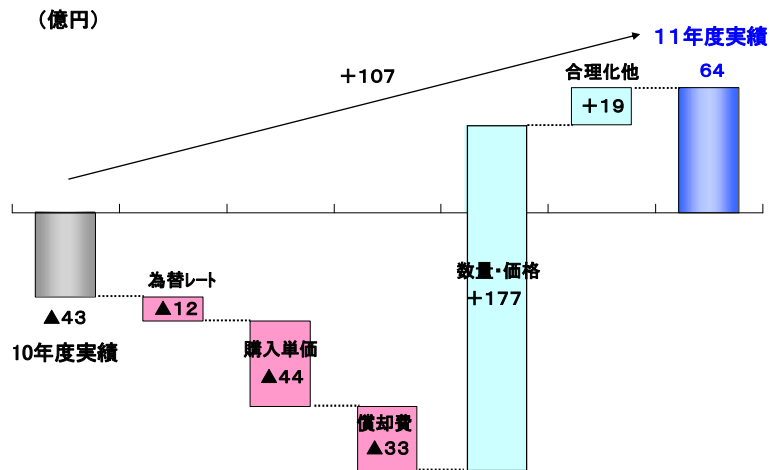
	10年度 実績	11年度 実績	差異
売上高	337.6	622.3	+284.7
営業利益	▲43.2	64.4	+107.6
営業外損益	▲6.9	▲4.5	+2.4
経常利益	▲50.1	59.9	+110.0
特別損益	▲19.9	▲4.5	+15.4
税引前当期利益	▲70.0	55.4	+125.4
当期純利益	▲41.7	31.3	+73.0

(為替レート) (86円/\$) (79円/\$) (7円/\$円高)

(注) 特別損益(億円)	10年度	11年度	差異
シリコン操作停止損	▲11	—	+11
廃却・撤去損	▲6	▲4	+2
過年度資産除去債務	▲3	—	+3

3

営業利益 11年度実績と10年度実績との差異



4

11年度実績 セグメント別業績

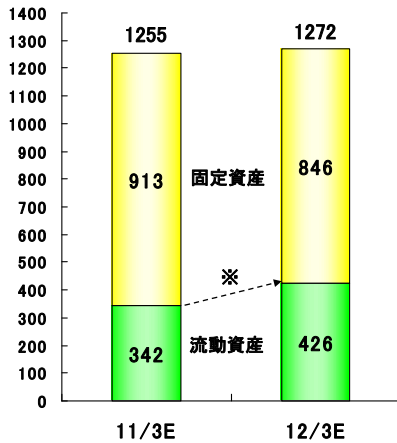
(億円)

	10年度実績		11年度実績		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
チタン事業	263.9	▲20.4	361.7	20.9	+97.8	+41.3
ポリシリコン事業	45.5	▲31.5	234.9	39.0	+189.4	+70.5
高機能材料事業	28.2	8.7	25.7	4.5	▲2.5	▲4.2
計	337.6	▲43.2	622.3	64.4	+284.7	+107.6

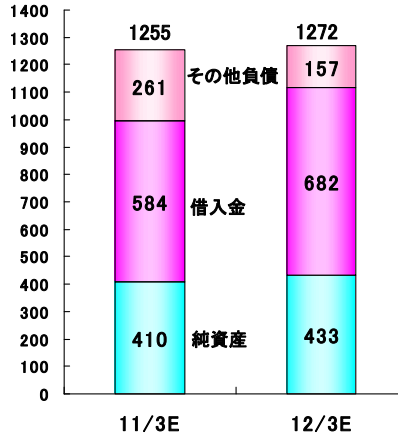
5

B/Sの概要

資産合計(億円)



負債・純資産合計(億円)



※ 売上債権、棚卸資産増加

自己資本比率 32.7% 34.0%

6

C/Fの概要

(億円)

	10年度実績	11年度実績
税前償却前利益	+ 41	+ 201
税支出	0	0
その他	+ 14	※ Δ 80
営業活動によるC/F	+ 55	+ 121
有形固定資産取得	Δ 227	Δ 220
その他	Δ 6	Δ 1
投資活動によるC/F	Δ 233	Δ 221
新規借入	+ 220	+ 139
返済(リース含)	Δ 10	Δ 41
配当金	Δ 3	Δ 9
財務活動によるC/F	+ 207	+ 89
現金及び現金同等物増減	+ 29	Δ 11

手許資金残高 (10/3E) 27億円 → (11/3E) 56億円 → (12/3E) 45億円

※ 売上債権、棚卸資産増加

7

Ⅱ 事業環境

<チタン>

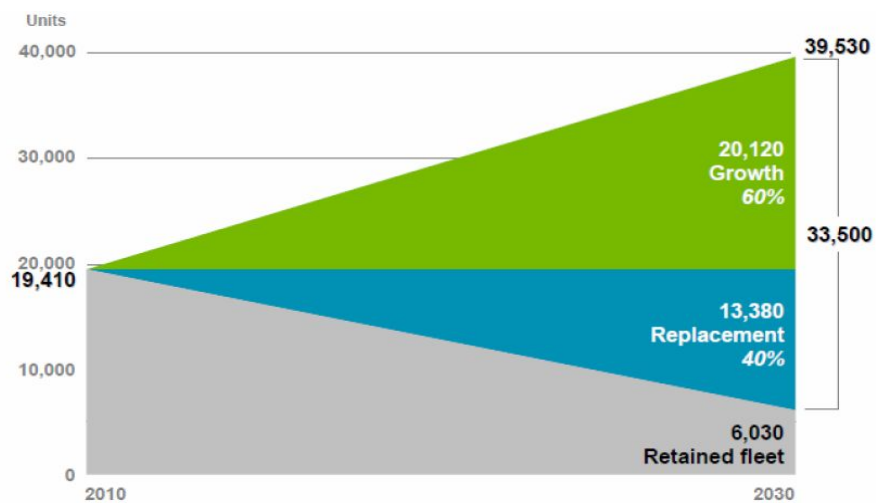
チタンの市場動向①

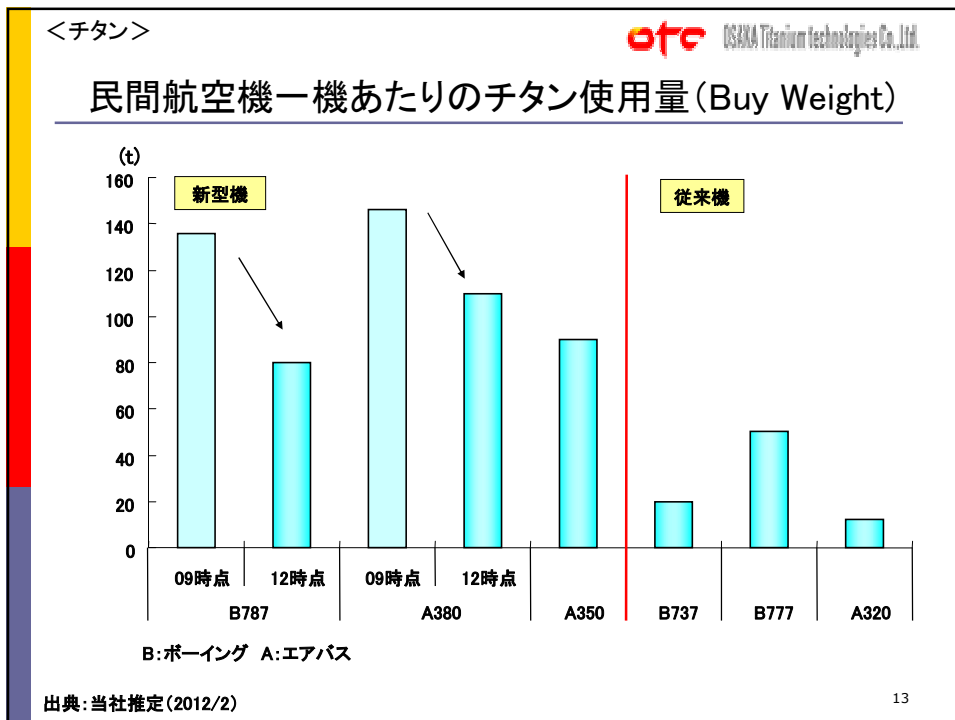
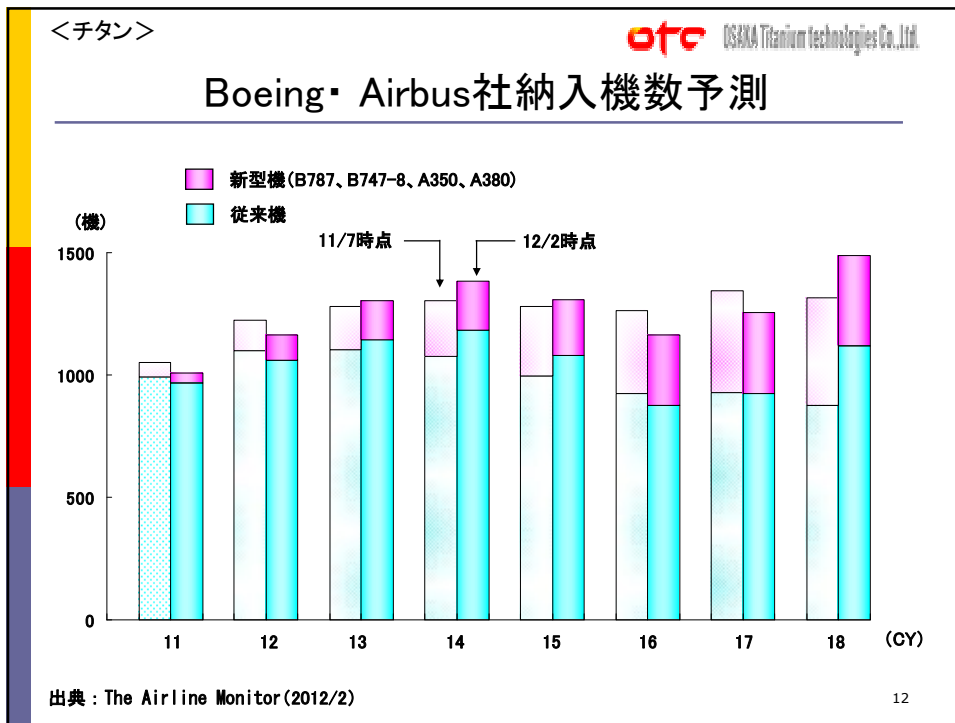
	市場動向
航空機用 展伸材市場	<p>【11年度】 需要増の顕在化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンジン分野で需要増先行 ・機体分野でも需要堅調 <p>【12年度】 11年度後半並の需要継続 ※懸念材料としてサプライチェーン内在庫消化遅れ 及び スクラップリターンの本格化</p> <p>【中期展望】 安定拡大軌道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増加要因：従来機(B737・A320)増産、新型機(B787・A350)生産本格化 ・減少要因：1機あたりのチタン使用量は減少傾向(加工技術の向上) スクラップ配合率の増加

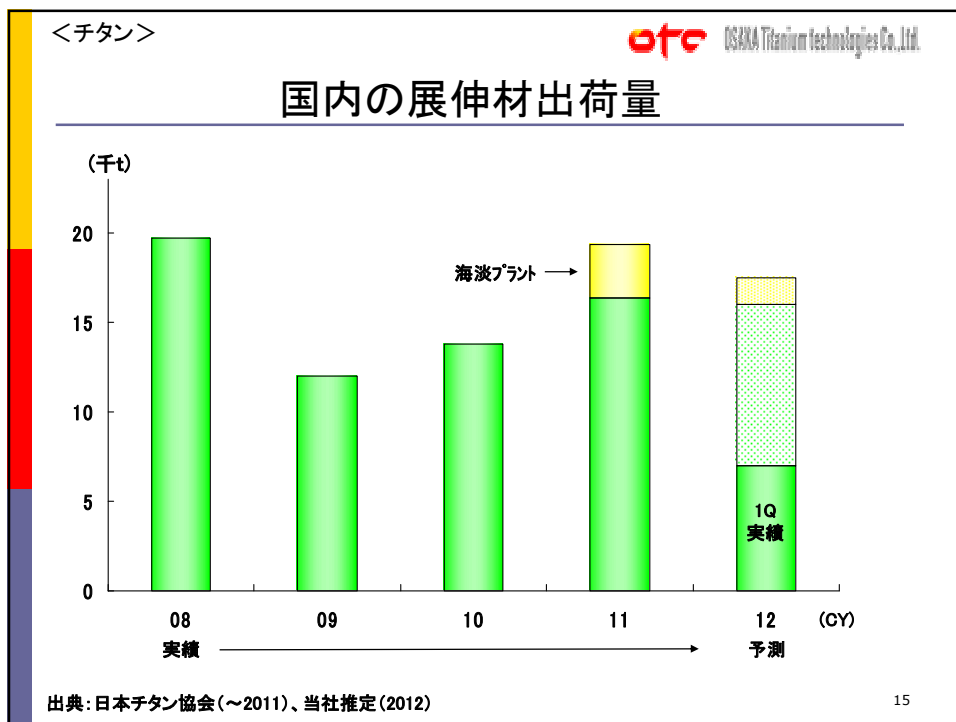
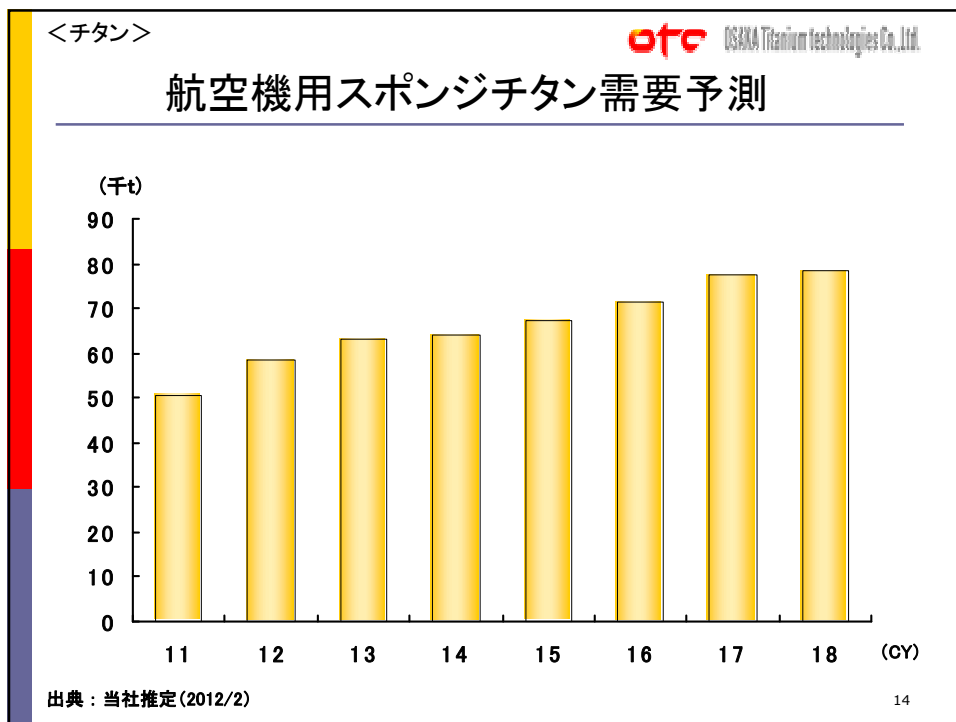
チタンの市場動向②

	市場動向
一般産業用 展伸材市場	【11年度】 大幅な需要回復 ・電力・産業用プラント需要回復 ・海水淡水化プラント用需要増 【12年度】 △10%程度の需要減見通し ・大型海水淡水化案件の決定遅れ ・原発案件の後ろ倒し ・世界経済の停滞 【中期展望】 海外メーカーの台頭、円高影響

航空機需要予測(2010-2030年)



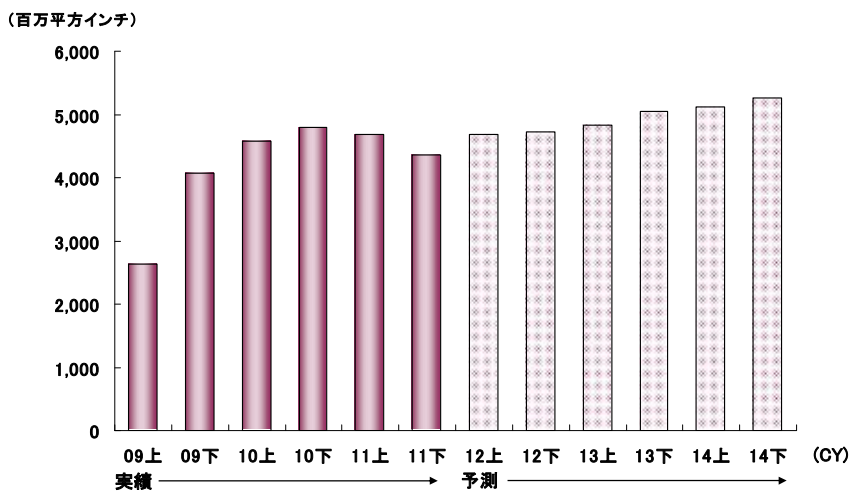


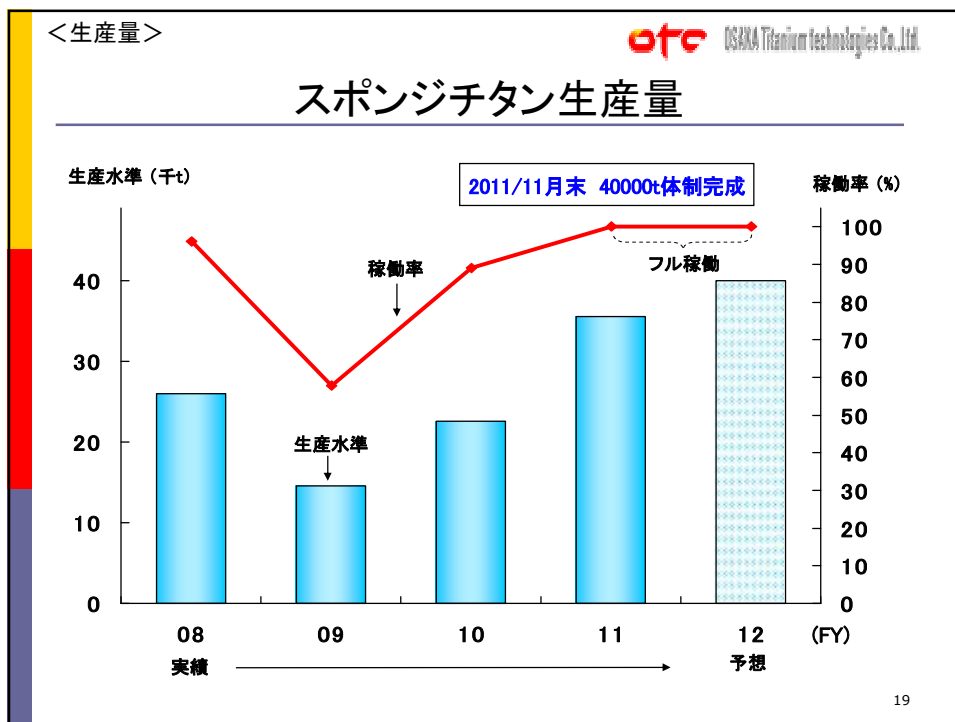
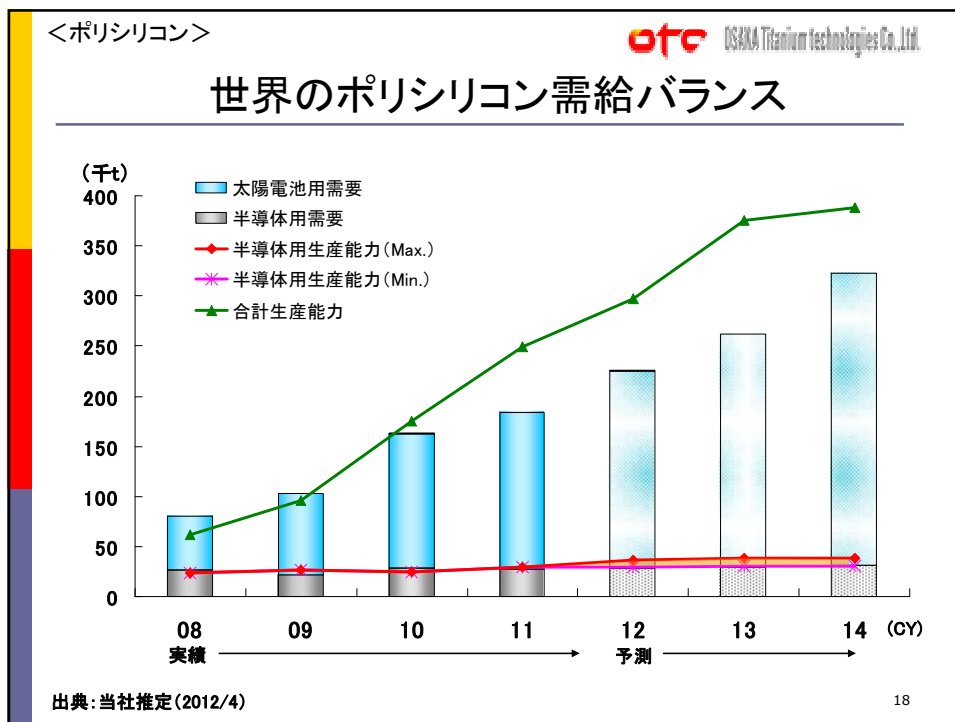


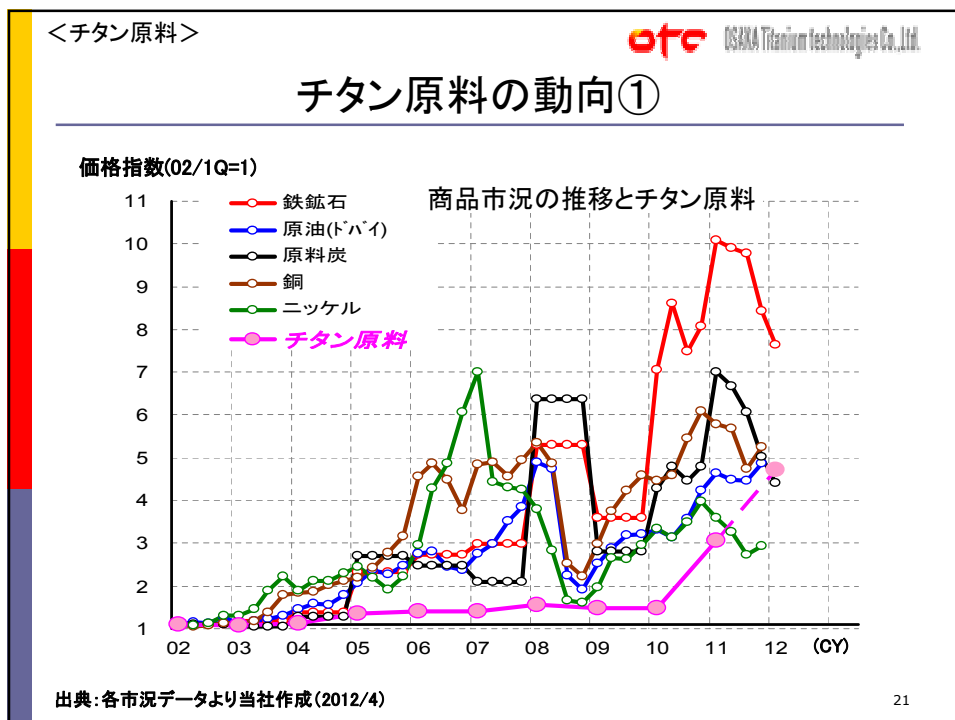
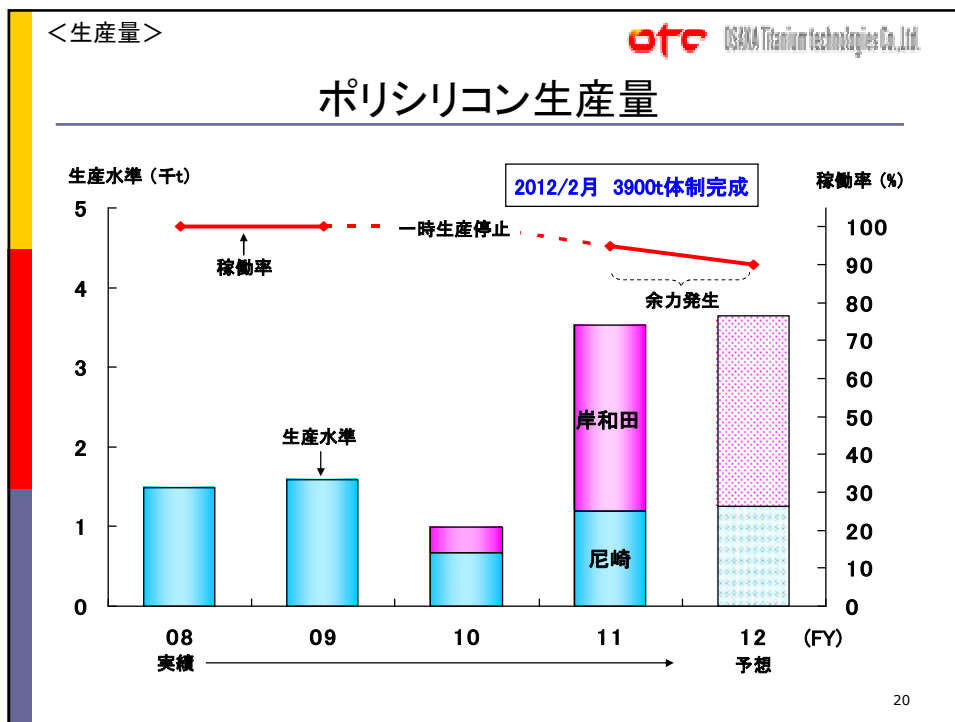
ポリシリコンの市場動向

市場動向	
ポリシリコン事業	【11年度】 上期半ばから需給調整局面 ・PC向けを中心とした半導体需要減 ・タイでの洪水影響
	【12年度】 不透明感継続 ・半導体需要は下期から回復期待 ・サプライチェーン内在庫増の影響(購買抑制)
	【中期展望】 暫くの間、不透明感継続 ・増加要因：半導体需要は年率4~5%増加 ・懸念要因：太陽電池向け需給ギャップの影響

世界のシリコンウェーハ出荷実績・予測(面積ベース)

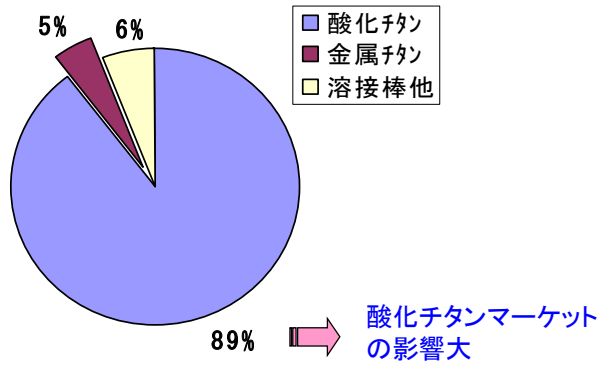






(参考)チタン原料の動向②

チタン原料の用途別使用内訳



出典: TZMI 2011

22

Ⅲ 2012年度業績予想

23

2012年度 業績予想

(億円)

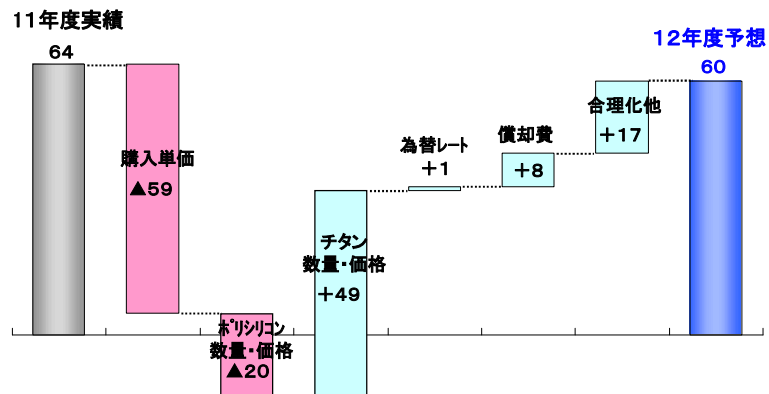
	11年度実績	12年度予想			差異
		上期	下期	計	
売上高	622.3	318	398	716	+ 93.7
営業利益	64.4	23	37	60	▲ 4.4
営業外損益	▲ 4.5	▲ 3	▲ 2	▲ 5	▲ 0.5
経常利益	59.9	20	35	55	▲ 4.9
特別損益	▲ 4.5	▲ 1	▲ 2	▲ 3	+ 1.5
税引前当期利益	55.4	19	33	52	▲ 3.4
当期純利益	31.3	12	20	32	+ 0.7

(為替レート) (79円/\$) (80円/\$) (80円/\$) (80円/\$) (1円/\$円安)

24

営業利益 12年度予想と11年度実績との差異

(億円)



25

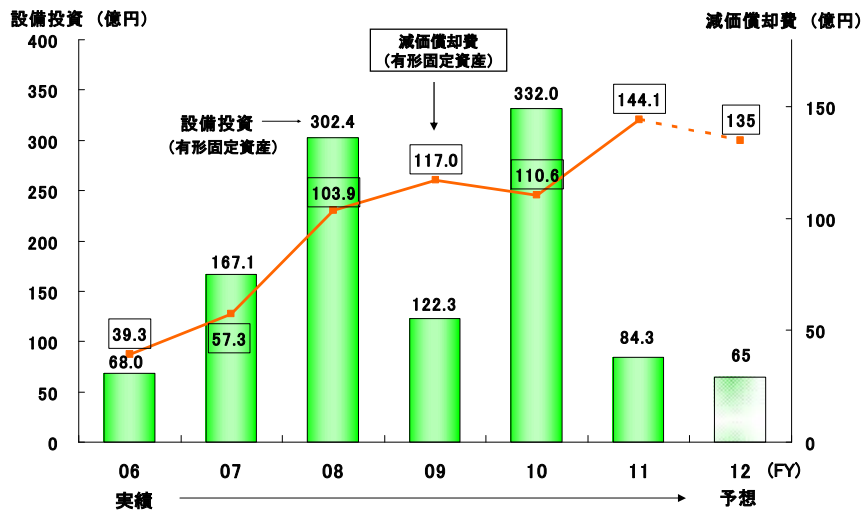
12年度予想 セグメント別業績

(億円)

	11年度実績		12年度予想		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
チタン事業	361.7	20.9	446	35	+84.3	+14.1
ポリシリコン事業	234.9	39.0	244	21	+9.1	▲18.0
高性能材料事業	25.7	4.5	26	4	+0.3	▲0.5
計	622.3	64.4	716	60	+93.7	▲4.4

26

(参考) 設備投資(土地除く)と減価償却費



27

配当予想

	当期(12/3月期)実績	次期(13/3月期)予想
中間	15円/株	15円/株
期末	20円/株	未定
年度	35円/株	未定
配当性向	41%	—

IV 課題と取組み

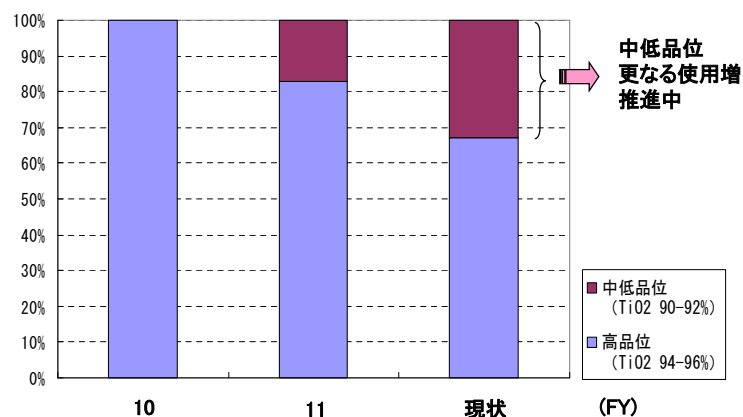
12年度 課題と取組み

事業別	課題	取組み
チタン事業	40000t体制での効率的生産の追及 →急激な増産対応から安定生産・コスト合理化追求へ	製造技術力のアップ ・歩留向上 ・生産性改善(含む物流改善) ・エネルギー原単位向上 ・中低品位原料使用増
ポリシリコン事業	3900t体制での効率的生産の追及	製造技術力のアップ ・生産性改善 ・エネルギー原単位向上 ・品質競争力の一層の向上 ・生産余力の有効活用(電力需給対応)
高機能材料事業	二次電池用SiO技術開発と事業化推進	投入資源の集中による開発加速

30

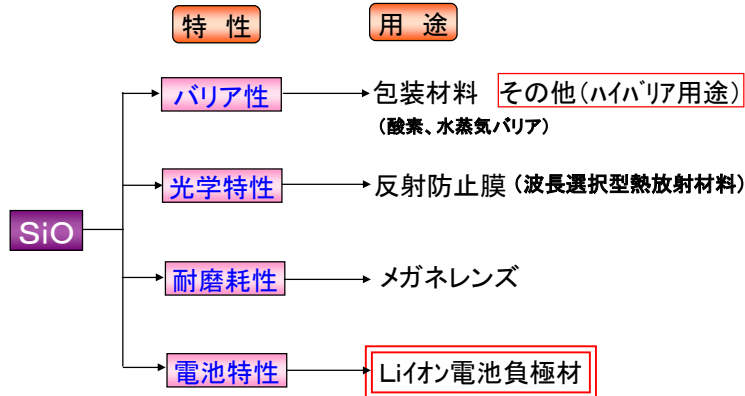
<チタン原料>

当社のチタン原料使用比率

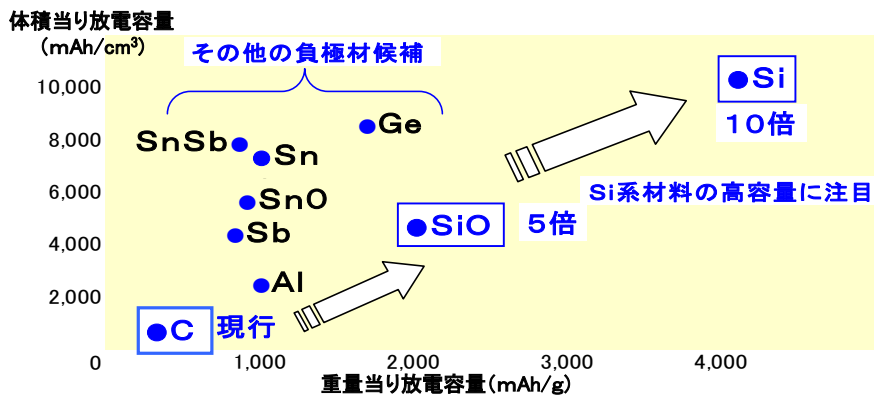


31

SiOの特性・用途



Liイオン電池負極材の候補材料



【SiOの特徴】

放電容量	Si > SiO > C
実用化の難易度(膨張特性等)	C < SiO < Si

【開発のポイント】

SiOは優れたポテンシャルを有するが、実機化には一段の特性改善(安定性等)が必要

夏季電力需給対策(検討中)

電力需給見通し	7/ 2~8/10 : 最も需給逼迫 → 節電特別強化期間
	8/11~8/19 : 需給緩和(盆休み)
	8/20~9/28 : 需給逼迫 → 節電強化期間



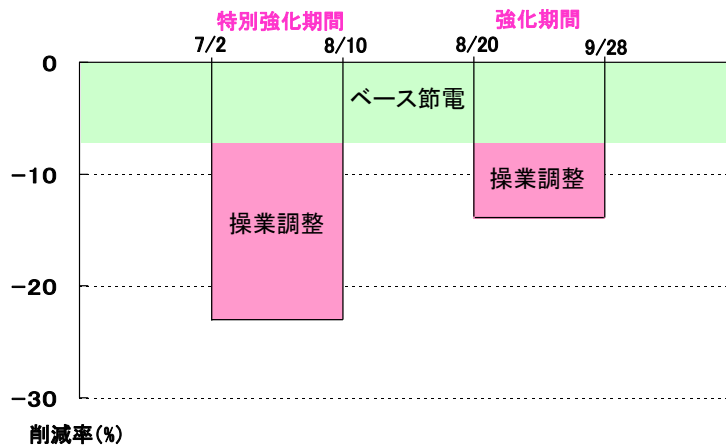
節電対策

項目	実施内容		
ベース節電	<ul style="list-style-type: none"> 空調 (夏:28°C, 冬:20°C)、照明管理徹底 OA機器節電モード設定 省エネ投資推進・・・高効率照明・LED照明の積極的導入、設備省エネ化 		
操業調整	ポリシリコンの生産余力活用、チタンは生産影響ない範囲で夜間操業シフト		
		7/ 2~8/10	8/20~9/28
	・ポリシリコン 尼崎工場 操業停止	○	—
	・ポリシリコン 岸和田工場 一部設備休止	○	○
	・スポンジチタン電解設備の夜間高負荷操業	○	○
	・チタン溶解工場の昼間操業停止	○	○

34

節電効果予想

対契約電力比削減率



35

終了

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、不確定要素を含んでおります。このため、様々な要因により、実際に生じる結果が予測内容と異なる可能性があることをご承知下さい。本資料利用によって生じるいかなる結果につきましても、当社が責任を負うものではありません。